

## <今朝の聖書から>

村上定幸

**【黙示録】** 告別礼拝の時に、ヨハネの黙示録を開きました。神の御心が完全に支配する時に、わたしたちは希望を置いているのですが、黙示録には、怖い話が沢山出てきます。6章で啓示されている出来事、封印が解かれる様も、不気味といえます。黙示録全体を見てみますと、怪獣のような生き物や、不気味な光景も展開されます。何故不安につながる光景なのでしょう、それは私たちが、了解できる不安や恐怖だからです。似たような体験も分かります。

**【平安】** しかし黙示録の7章は、子羊の守りの平安といっても良いかもしれません。慰めがあるのです。辛い毎日の中での慰めに満ちています。全ての邪悪を四方でさいぎられ、選ばれた者たちが主の前で讃美をするのです。“救いは、玉座に座っておられるわたしたちの神と、小羊とのものである(7:10)”と讃美をするのです。しかし“あらゆる国民、種族、民族、言葉の違う民の中から集まった、だれにも数えきれないほどの大群衆(7:9)”が、声を揃えて行為なのです。ここで不思議に思うことがあるのです。それではいったいどんな言葉で、讃美をしたのでしょうか。

**【異文化】** 今では異文化といっても珍しい言葉でもありませんし、大学には、このような科目もあるみたいです。通訳の役目がどんなに大切かは、むかしから理解されていたことだと思います。この出来事を掲示しているのが今朝の聖書箇所が出来事、バベルの塔の出来事です。この“違う”ということは、自分の経験していないことを経験したりできますし、お互いを理解しようという謙遜にもつながりますし、豊かにするものです。しかし争いの原因にもなって来ました。“どうぞ、アラム語でもべどもに話してください。わたしたちは、それがわかるからです(Ⅱ列 18:26)”とあるように、理解できないということにどんなにか苦労してきたのです。

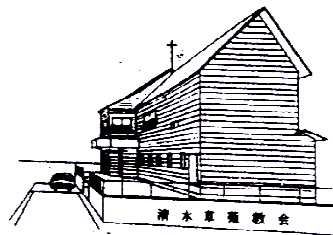
**【いっしょに出来ない】** “考えが違うから一緒に出来ない”などということを経験します。“問題になりそうなことは言わない”は一致ではありません。教会もそうです。口では一致“聖霊による一致を守り続けるように努めなさい(エペソ 4:3)”にはアーメンと言いながら、教会は、そうできない不一致に苦しんできたのです。内容を捨て、ただ集まることを“諸教派の一致”と思うこともあります。昔バベルの塔は結局作られませんでした。創世記 11:8 には“彼らはこの町(バベルの塔)の建設をやめた”とありますが、その原因は、言葉が通じないこと、そしてそれによって人々が四方に散らるることによったのです。

**【主への信頼】** 主は私たちに、“豊かさを手にしなさい、その力を私は授けよう”といわれます。しかし、私たちが“神に頼るには及ばない、豊かさは自分で手にするものだ”と思ったら、このようなことを教えているのです。意志や行動が言葉とどのように関係しているか、詳しくここで解説出来ませんが、意志はその中身を言葉で、まず説明されることに反論はないでしょう。

**【神の言葉】** 神の言葉に聞くのが教会なのです、それは聖書がときあかされる時に体験として、私たちに与えられるのです。神の言葉の自由が“闇は光を知らなかった(ヨハネ 1:5)”世界に、御国として輝くのです。“御国を来たらせたまえ”と、天国への信頼を礼拝に於いて祈るのです。

# 週報

2012年 2月 19日



伝えよう 救い主を  
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

振替口座 00890-6-214042